

構造工学シリーズ25 橋梁の維持管理 実践と方法論

正 誤 表

(第1版・第1刷に対応)

平成28年6月18日版

| 章 | ページ | 行, 図表 | 誤 | 正 |
|-----|-----|------------|--------------------------------|--|
| Ⅲ-2 | 133 | 写真2.3.6.2 | 評価区分(c)の例と評価区分(e)の例の写真が逆。 | 評価区分(c)に垂直補剛材と上フランジ溶接部の写真。 評価区分(e)に支承部ソールプレートの写真。 |
| Ⅲ-2 | 151 | 5行目 | 耐候性鋼材のける評価では、 | 耐候性鋼材 における 評価では、 |
| Ⅲ-2 | 155 | 写真2.3.6.12 | 評価区分 (B)の例 | 評価区分 (b) の例 |
| Ⅲ-2 | 158 | 2行目 | 図いのフロー図 | 図 2.3.6.18 のフロー図 |
| Ⅲ-2 | 162 | 図2.3.6.22 | ※1：海洋性による | ※ 2 ：海洋性による |
| Ⅲ-2 | 172 | 写真2.3.6.16 | 評価区分 (B)の例 | 評価区分 (b) の例 |
| Ⅲ-2 | 177 | 写真2.3.6.17 | 評価区分 (B)の例 | 評価区分 (b) の例 |
| Ⅲ-2 | 180 | 11行目 | 道路利用者へ障害を及ぼす懸念がる | 道路利用者へ障害を及ぼす懸念が ある |
| Ⅲ-2 | 188 | 6行目 | 発生する懸念がる状況 | 発生する懸念が ある 状況 |
| Ⅲ-2 | 196 | 6行目 | cの2段階に区分されている。 | e の2段階に区分されている。 |
| Ⅲ-2 | 227 | 表2.3.7.1 | (その4) ・記録の下地となる要素番号及ぶ部材番号を設定し、 | (その4) ・記録の下地となる要素番号及 び 部材番号を設定し、 |
| Ⅳ-1 | 252 | 1.2上7行目 | に基づいて | について |
| Ⅳ-1 | 260 | 上1行目 | 設計・施工における | 施工・維持管理 における |
| Ⅳ-1 | 260 | 参考文献2) | 題39回 | 第 39回 |
| Ⅳ-2 | 262 | 8行目 | 事業東京国際空港国際線地区エプロン等整備等事業 | 東京国際空港国際線地区エプロン等整備等事業 (始めの“事業”は削除) |
| Ⅳ-2 | 314 | 下から2行目 | 損少数 | 損 傷 数 |